

2022 年度事業報告

(2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日)

(公財)経団連国際教育交流財団

1. 奨学事業

(1) 日本人大学院生奨学事業（日本人大学院生奨学金）

学業、人物ともに優秀であって、広く社会に貢献する意志を持ち、将来、アカデミアの世界で研究者として活躍することが期待される日本人大学院生を対象に、海外の大学院に留学するための奨学金を、(一社)東京倶楽部の助成金も得て支給した。

① 2023 年度奨学生の募集・選考

5 大学から推薦のあった 9 名の応募者に対して選考（書類選考：10 月 17 日、面接選考：11 月 14 日）を行い、奨学生 1 名を選抜した。

② 奨学金の支給

2022 年度は、2021 年度奨学生 1 名、2022 年度奨学生 2 名の合計 3 名に対して、奨学金（1 名あたり年間 350 万円）を支給した。

(2) 産業リーダー人材育成奨学事業（産業リーダー人材育成奨学金）

大学院修了後、日本企業において活躍する意志を持つ、わが国の大学の最終学年、もしくは大学院博士前期課程 1、2 年生を対象に、海外の大学院に留学するための奨学金を支給する。

2022 年度は、2021 年度奨学生 1 名および 2022 年度奨学生 1 名の計 2 名に対して、奨学金（1 名あたり年間 450 万円）を支給した。

なお、本事業は、事業開始当初の計画通り、本事業実施のために積み立てた特定費用準備資金が無くなる時点、すなわち、2022 年度奨学生に対する奨学金支給完了（2023 年度）をもって終了するため、2023 年度以降の奨学生の募集・選考は行っていない。

(3) 経団連グローバル人材育成スカラーシップ事業

将来、グローバルなビジネス領域で活躍する意志を持つ大学生および大学院博士前期課程 1、2 年生（応募時点）を対象に、経団連会員企業からの寄付金も得て、海外留学のための奨学金を支給した。

① 奨学金の支給

2021 年度奨学生 20 名のうち、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で留学開始が 2022 年度になった 3 名、ならびに 2022 年度奨学生 20 名の

うち留学を開始した19名の計22名に対して、奨学金を支給した。残る2022年度奨学生1名に対しては、2023年度、留学確定後に奨学金を支給することとした。

② 奨学生への指導・助言

4月11日、2022年度奨学生を対象に、留学生活や将来の進路に向けての抱負、当面の課題などを奨学生同士で共有するための「課題共有会」をオンラインで開催したほか、ソーシャル・ネットワーク等を利用して留学準備の支援や関連情報の提供・助言等を行った。

③ 経団連グローバル人材育成スカラーシップ事業募金の実施

本事業の実施に充てる費用の一部について、経団連会員企業を対象に、経団連と共同で寄付金の募集を行った。

④ 2023年度奨学生の募集・選考

44大学から応募のあった306名の学生について、9～10月に書類選考を実施して58名を書類選考通過としたうえで、11月29日に面接選考会を実施し、20名を合格とした。

⑤ 「経団連グローバルキャリア・ミーティング」開催への協力

経団連グローバル人材育成スカラーシップ奨学生を含む、海外留学経験者等の就職機会を拡充すべく、合同就職説明会・面接会「経団連グローバルキャリア・ミーティング」のオンライン開催（8月1日）に協力した。

2. 会 議

事業計画・同収支予算、事業報告・同収支決算等、当財団の重要事項を審議するため、理事会を3回（うち「決議の省略」による開催1回）、評議員会を1回、それぞれ開催した。

(1) 理事会の開催

① みなし決議に関する第30回理事会（5月26日）

2021年度（2021年4月1日～2022年3月31日）事業報告および附属明細書等、2021年度財務諸表等について、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」）に基づく手続きによる決議の省略（みなし決議）にて、可決した。

② 第31回理事会（6月15日）

公益目的事業会計流動資産の充当に関して審議し、可決した。併せて、理事の職務執行状況に関する報告を行った。

③ 第 32 回理事会（3月 16 日）

2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）事業計画および収支予算案、2023 年度資金調達および設備投資の見込み、第 12 回定時評議員会の招集、選考委員の委嘱に関して審議し、可決した。併せて、理事の職務執行状況に関する報告を行った。

(2) 第 11 回定時評議員会の開催（6月 15 日）

2021 年度事業報告および附属明細書等、2021 年度財務諸表等に関して審議し、可決した。併せて、2022 年度事業計画および収支予算に関する報告を行った。

3. その他

当財団のホームページで、日本人大学院生奨学生ならびに産業リーダー人材育成奨学生の留学報告を紹介した。

(<https://www.keidanren.or.jp/japanese/profile/ishizaka/>)

以 上